

ハダカイワシ科魚類の行動観察

水産情報工学部

研究の背景・目的

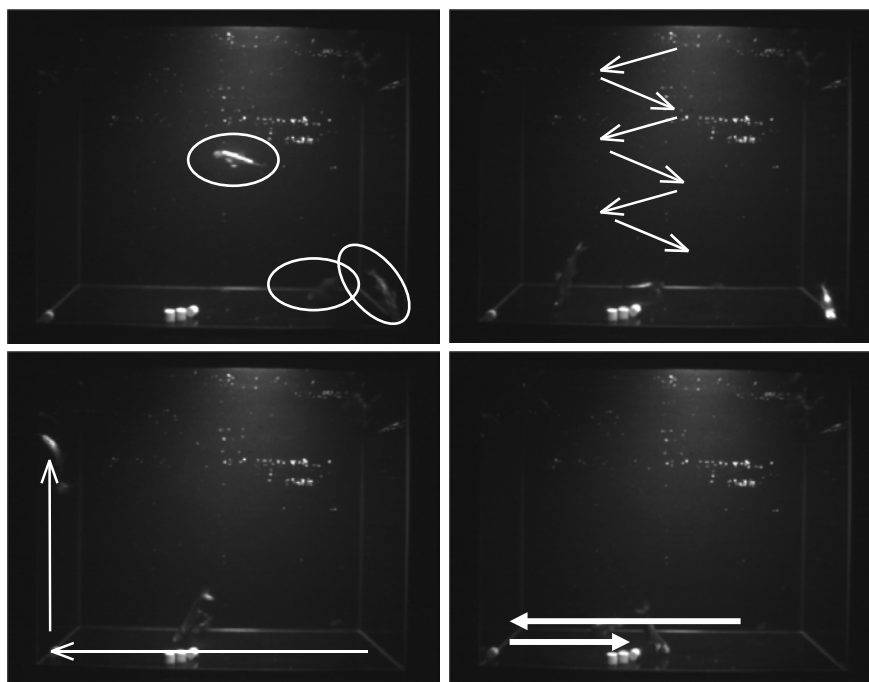
1. ハダカイワシ類に見えない、あるいは行動に影響を与えない「不可視ライト」の実用化にむけた可能性や問題点を探る。
2. 生きた状態のハダカイワシ類にLED照明をあて、その反応を観察し、光が行動へ与える影響について調べる。

研究成果

1. アラハダカ, ゴコウハダカを生きた状態で1時間以上観察することに成功した。
2. 夜表性のハダカイワシ類の場合, MOHT を用いれば活魚の状態でサンプリングすることが可能であることが分かった。
3. 青色光に対しては, アラハダカ, ゴコウハダカ共に激しい反応を示した。
4. 赤色光に対しては, アラハダカが反応を示し, ゴコウハダカはほとんど反応を示さなかった。

波及効果

1. ハダカイワシ類に見えない、あるいは行動に影響を与えない「不可視ライト」の仕様設計に利用することができる。
2. 本手法は、他の魚種についても応用可能である。



青色光に激しく反応するアラハダカの様子

(資源情報工学研究室・安部 幸樹, 澤田 浩一)